

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、地域生活の継続支援、事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしています。ミーティングでは、理念を掘り下げて職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っています。	「入居者の皆様がその個人の持っている能力を最大限に発揮できるように支援する」という理念に基づきケアにあたっている。理念について毎朝のミーティング時に管理者がふれ職員間で共有している。職員体制も増強し、入居者の個々の生活に合わせた小まめな対応をしていくという方針を新たに打ち出している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでは定期的に行事活動を開催しており、実施する日には近隣の方や、御家族様にも呼びかけています。畑の作物の差し入れに來られる方もいます。	区費を納め回覧板も回ってくる。地域の奉仕活動などにも参加している。ホーム主催の「夏祭り」や「餅つき」等、地域の方々に声掛けし参加していただいている。近くの中学校の生徒6名の「体験学習」も受け入れており、入居者と一緒にそば打ちを行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は事業者での実践内容を踏まえて、地域の様々な研修に参加し、認知症ケアの啓発に努めています。また、人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項や勘案事項について、その経過を報告し合い、1つ1つ積み上げていくようにしています。また、これまでの評価結果を踏まえ、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようにしています。	前管理者の健康面の関係で急な交代をした経緯もあるが、運営推進委員の方々の協力により6回開催した。外部評価の結果報告やホームの目標、行事の報告や職員の紹介などを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の機会等に市町村担当者へ、利用者の暮らしぶり等を伝え、連携を深めています。	中学生の体験学習やそば打ちボランティアを紹介いただくなど、ボランティアの受け入れについて市担当部署と連携をしている。運営推進会議時に市職員よりの提案事項も頂いている。今後も市との関わりを密にしていきたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送り時等で、その日のケアを振り返り、気づかないうちに言葉をささぎったり、気持ちを押さえつけて、利用者の抑圧感を招いていないか点検を行っています。	玄関や各居室の施錠はしていない。7項目からなる「ふるさと介護従事者の基本姿勢」がつけられており、身体拘束の項も設けられている。身体のみならず言葉や対応による拘束についても職員間で話し合い、拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透に向けた取り組みを行っています。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員への説明を行っています。対応が必要と思われる利用者がある場合は、随時、職員に説明、アドバイスをしながら利用者の支援に結び付けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様には手紙や訪問時に、常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意しています。出された意見、要望等はミーティングで話し合い、反映させています。	毎月「ふるさとだより」が発行されている。ホームでのひと月の生活の報告と入居者の写真、近況報告などを入れ家族のもとへ送っている。「夏祭り」への参加も家族にお願いしている。家族の来訪時には気軽に意見・要望などを言っただけのよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングで職員の意見、要望を聞くようにしています。また、個別に意見も聞くようにしています。	毎日9時に申し送りのミーティングを行い、その都度意見を聞いている。夜勤者との申し送りは午後4時に行い、情報の共有を図っている。管理者は「思っていることは声に出して相手に伝えることが必要」と常に話し、職員も実行している。職員個々に意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も頻繁に現場に来ており、利用者や過ごし、個別職員の業務や悩みを把握しています。また、職員の疲労やストレスの要因についても気を配っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間に行われる外部研修の情報を収集し、職員の段階に応じて、受講できるよう計画をたてています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡会があり、その中で交換研修やスタッフ研修を設けて質の向上に励んでいます。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受けられるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合いをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や御家族様の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ること努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる関係づくりに留意しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は御家族様の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支えるために御家族様と同じような思いで支援していることを伝えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人等が、ホームに来たりと継続的な交流ができるよう働きかけています。	入居者の友人が差し入れを持って訪問してくれたり、家族と日帰りでお墓参りに行くなど入居前からの馴染みの関係や慣習を大切にしている。お正月などに親戚が大勢でホームを訪問することもある。近くの中学生の体験学習の受け入れの際、「あそこの家の孫かい」という話で、思いがけなく昔のつきあいや話に及ぶこともあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援しています。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所等に移られた場合にも、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めています。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしています。意思疎通が困難な方には、御家族様や関係者から情報を得るようにしています。	現在自分の意志や思いを伝えられる方が半数以上いる。ホームの理念に基づき入居者の話を尊重し聞く姿勢を重視するなどの方針を決めたことで入居者への接し方を変更しており、入居者自身からの要望が多く聞かれるようになった。見守りを中心にしながら入居者の満足がいくようにと全員で努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のバックグラウンドを知れば知るほど、その人への理解につながっている。この取り組みは、大変重要なことと考え、本人をはじめ、御家族様や地域の人の力を借りながら継続的に行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様や御家族様には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしています。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っています。	入居時に本人や家族の希望を聞き、管理者、計画作成担当者及び看護師でプランを作成している。本人に説明したり家族にプランを送付している。ミーティング時、職員にケアプランの決定内容を話している。基本的には3ヶ月で見直しを行っており、状態に変化がみられる時は随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底しています。また、個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様、御家族様の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるような努力をしています。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員と意見交換する機会を設けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様や御家族様が希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院は御本人様や御家族様の希望に応じて対応しています。基本的には御家族様同行の受診となっていますが、不可能な時には職員が代行するようにしています。	昨年の4月より協力医による往診が2週間に1回行われている。入居以前のかかりつけ医を継続されている方もおり、家族・入居者の希望により協力医に変更する方もいる。かかりつけ医の受診については入居者と家族の繋がりを保つため原則として家族に付き添いをお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいます。変化等に気づいたことがあれば、ただちに看護職に報告し、適切な医療につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、御本人様への支援方法に関する情報を医療機関に提供しています。また、御家族様とも回復状況等情報交換しながら、速やかな退院支援に結びつけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意志確認をし、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っています。	入居契約時に本人や家族への説明を行っている。食事ができない状態になり医療行為が必要になった時には家族や医師、職員で話し合いを持っている。昨年は2名の方が救急搬送先の病院で亡くなっている。	指針書を作成することにより、家族がホームに対しそれ以後の相談がしやすくなると思われる。ホームの指針作成について検討されることを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車が到着するまでの応急処置や準備すべきことについて、ケースの想定をしながら話し合いを繰り返しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者とともに避難訓練を行っています。地域の協力体制については、日ごろからお願いをしたり、協力を呼びかけています。	年2回災害・消防訓練を行っている。消防署が来て指導していただく時には、入居者も全員参加し行なっている。今回の東北関東大地震が起きた時、管理者は近隣の家々に「災害時はお願いします」とお願いして回った。食料等の備蓄がされている。	

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も、まずは本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めています。	理念に基づき入居者の方々を人生の先輩として敬う気持ちで接することを心がけている。入居者の呼び名は、希望する姓か名にさん付けで呼んでいる。日常会話も慣れ合いにならないように気をつけ、職員同士お互いに注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押しつけるようなことはせず、複数の選択肢を提案して一人ひとりの利用者が自分で決める場面をつくっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心がけています。その日のコンディション、様子をみながら、本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは、基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に採ってきた野菜、一緒に稲刈りをした米などの食材を使って一緒に調理をしたり、食事を1日の大切な活動のひとつにしています。	畑で作った大根を漬けものにし食卓に出したり、食材の下準備や食後の後片付けなど、入居者も出来る範囲で手伝っている。入居者と職員が4つのテーブルに別れ、会話をしながら食べている。入居者はせかされることもなく、ゆっくりと時間をかけて食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量も個々に合わせて確認するようにし、御本人様の好きな物や食べやすいものを出すようにしています。主治医からも、適切な1日の摂取量等のアドバイスをいただき、提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御自分で出来る方は声かけ見守りをし、出来ない方に関しては毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎の防止などにも努めています。		

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、利用者の様子から敏感に察知し、身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助をしています。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類も御本人様に合わせて検討しています。	自立されている方は半数以上いるが、排泄表を作り、時間を見計らい、見守りしながらトイレでの排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘の方には牛乳やヨーグルト等で十分な水分補給と繊維質の多い食材を提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が一方的に決めず、利用者のその日の希望を確認し入っていただいています。また、ゆっくり浸かりたい人には順番を後に回すなどの工夫もしています。	1週間に最低2回は入浴しており、個々の希望により随時入浴することもできる。長風呂を希望する方には本人の希望に沿うように見守りながら支援している。時間に追われることなくのんびりとお風呂の時間を楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めています。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表の作成や処方箋を整理し、職員が内容を把握できるようにしています。服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、スーパーに行ったり、ドライブに行ったり、戸外に出かける等、積極的に外出しています。	近所に散歩に出かけたり、食材の買い出しに職員と同行している。決まった時間に散歩を希望し、職員の付き添いを得ながら自分なりの速度で自由に歩く入居者もいる。職員数を増やしたことで各入居者に合わせた支援ができるようになった。行事外出としてお花見やバラ公園などヘッドライブを兼ね出かけている。	

斑尾の森グループホームふるさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持についてもは、御家族様ごとに様々な意向を持っているが、御本人様の安心や満足に向けて少額でも所持金を持っていただけるように御家族様と相談しながら支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけや家具の配置は、利用者様と一緒に考えて自分が住んでいる家だという意識を高めてもらうようにしています。	民家改修型のホームなので個室にはなっているが襖越しの続きになっていたりと、色々な間取りの居室がある。「ここは誰それさんのお部屋」というようにお互いに認識できている。使い勝手の良い手すりが付けられており、玄関にもスロープが付けられている。ごく普通の家庭のようにカレンダーがあり時計があるという見慣れた光景である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間は一体的なつくりで、全てが視界に入りやすい。ダイニングテーブル、椅子の配置に配慮したり、落ち着いてくつろげるスペースづくりに取り組んでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と御本人様が相談しながら、それぞれの利用者の居心地のよさに配慮しています。	テレビやベットを持ち込むなど個々の生活に応じた持ち込みがされている。居室に家族の写真が沢山貼ってある方、きれいに整理整頓されている方など、それぞれの個性が強く感じられた。入居者が過ごしやすい環境づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって「何が分かりにくいのか、どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し状況に合わせ、環境整備に努めています。状態が変わり混乱や失敗が生じた時は、職員間で話し合い本人の不安・混乱を取り除き、支援につなげています。		